

# 管楽合奏は楽しい会？

No.46 “ボヘミアから中南北欧へ”

2016年5月7日(土)14時開演 深川江戸資料館小劇場

シュレック 独(1849~1918)

「九重奏曲」全4楽章

(Fl)信澤・福村 (Ob)楠原 (Cl)景山/庄子 (Fg)森川/尾作 (Hn)井上/平本

ゲーヴィー 独・仏(1819~1898)

「小組曲・ゴロワーズ」全4曲

(Fl)信澤 (Ob)一宮/山本 (Cl)兼氏/庄子 (Fg)阿部/山田 (Hn)鬼村/井上

ドビュッシー(信澤編) 仏(1862~1918)

「小組曲」全4曲

小舟にて~行列~メヌエット~舞踊(バレエ)

(Fl)福村/信澤 (Ob)楠原/一宮 (Cl)庄子/兼氏 (Fg)尾作/阿部/角山 (Hn)鬼村/平本 (Kb)石井

--- Intermission ---

E.ハルトマン 丁(1836~1898)

「セレナード」全4楽章

(Fl)岡添 (Ob)土屋 (Cl)景山/兼氏 (Fg)山田/角山 (Hn)市原/平本 (Kb)石井

フェルトマイアー 捷(1756~1834)

「パルティータ へ長調」全4楽章

(Fl)岡添/信澤 (Ob)山本/土屋 (Cl)兼氏/景山 (Fg)阿部/角山 (Hn)市原/鬼村/井上 (Kb)石井

## 出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg/解説)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原暁氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表及び「法政ファゴットの会」同人

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の技術総括に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきれられている。当会の指揮者も務める才人。

(Fl)福村宏治(ふくむら こうじ) 初参加!

小学生時代にピアノ、バイオリンを始めるも、同じくフルートをやっていた兄の影響で中学の吹奏楽部でフルートを手に取る。大学入学時に、やはり兄の後を追ってオーケストラでもフルートを続ける道を選択。ここでピアノ・バイオリンとは袂を分かた。現在は、ブロースト交響楽団、アンサンブルコンソルテに所属。ITコンサルタントとして働く傍ら、タップダンスにも通い始め、将来の夢は、タップを踏みつつフルートを演奏する一人二役のライブ。なお、クラリネットの景山氏とは中学・高校が姉妹校で、中高時代、大学オーケストラから今に至るまで、20年弱に渡る交流がある。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動(2009~2014は団長)。鉄鋼系化学メーカーで鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので、運動不足が気になる気になる昨今である。現在、職場のビッグバンドでも活動中(担当:サクソまたはトロンボーン)

(Ob & C.Ang)一宮悠子(いちみや ゆうこ)

中学からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤也の各氏に師事。卒業後に地元仙台で就職したのを機に、念願のアマチュアオケに入団。以降もレッスンの度に高崎へ、また声が掛かれば喜んで上京し演奏活動をする日々を送っていたが、現在は埼玉へ移住し週末の音楽活動を楽しんでいる。平日は医療専門職として勤務。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏会コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎出身。中学でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001～2013年までエルムの鐘交響楽団にて活動。2008年からハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、2014年から「管楽合奏は楽しい会？」に参加。オーケストラは合奏団ZEROに所属している。勤務先の病院では広報・図書室・院内コンサートなどの担当をしている。趣味は海釣りやサイクリングである。

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)庄子穂奈美(しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦氏に、室内楽を太田茂に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会？出演後アメリカに赴任するが、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)尾作拓郎(おさく たくろう)

1984年生まれ、神奈川県出身。法政大学第二高等学校の吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団に所属。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人の一人で「法政ファゴットの会」同人

(Fg)角山由美(かくやま よしみ)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。大学卒業と同時に(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)で音楽家の権利を護る仕事一筋に勤めてきたが、仕事から退いたのを機にファゴットの基本から取り組んでいきたいと、演奏する事への意欲は益々盛んである。加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会？」ホームページの管理人。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。平日は大学教員(物理化学)。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介氏、井上華氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル“Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hn)井上華子(いのうえ はなこ)

小学校で金管バンドを始め中高は吹奏楽、千葉大学では管弦楽団に所属する傍ら、インセクツ・ウィンド・アンサンブル(音楽監督/菅原暁先生)で管楽合奏にも動かしむ。普段は小学校教諭として吹奏楽部の指導をしながら、現在もオーケストラとアンサンブルの二足の草鞋で演奏を楽しんでいる。この度、以前より交流のあった森川先生のお誘いを受け、「管楽合奏は楽しい会？」に2014年より参加。インセクツと違い、年齢層も広くプロの方も参加している環境で少々緊張しているが、その中で楽しんで演奏したいと張り切っている。

(Hr)鬼村真由子(おにむら まゆこ)

高校の吹奏楽部でホルンを始め、東京大学音楽部管弦楽団を経て、卒後は東京アマデウス管弦楽団や金管アンサンブル団体で活動。某ビール会社勤務で転勤族のため、ドイツや九州など転勤先でオーケストラを見つけ細々と活動していたが、2013年入社以来初の東京勤務となり、オーケストラやアンサンブルなどの活動を展開中。

(Hn)平本 彩(ひらもと あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始める。桐朋学園大学、同大学研究科を修了し、現在は桐朋学園大学嘱託演奏員を務めている。在学中に京都国際音楽学生フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ 2014、音楽大学合同フェスティバル2015などに選抜され、2016年小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI喜劇「こうもり」に参加する。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸、田場英子の各氏に、室内楽を佛坂咲千生、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭、幡崎耕三の各氏に師事。

(Kb)石井 朗(いしい あきら)

大学のジャズ研でベースを本格的に始める。日フィルの松本茂氏にコントラバスを師事、氏の紹介で虎の門交響楽団に入団、加えて足立シティーフィルにも参加し、更に青山ジャズパードにおいても演奏するという異色の奏者。現在は長年勤めた出版社を退職後日本語教師をしている。

本日はご来場下さり、有難うございます。管楽合奏を始めた頃は楽譜が余り無く、プログラムが続くだろうかと危惧しましたが、ネットの時代になって外国の情報も、楽譜も手に入り易くなりました。手持ちの楽譜でも音の出していないものが幾つもあり、少なくとも50回までは不足しないで済みそうです。これからも面白い曲を楽しく演奏し、聴いて戴きたいと考えております。次回も是非お出で下さる様、平にお願い致します。

次回の演奏会は2016年11月3日(木・祝)14時開演 王子・北とぴあ14F ペガサスホール